

事業番号	254
------	-----

平成25年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	雨水貯留施設管理事業							担当部	都市建設部		
	会計区分	一般会計			事業類型	法定受託系		担当課	河川課			
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	維持係			
	総合計画 分野別計画	主目的	5 都市基盤		26 河川・水路		2 雨水貯留施設を整備する					
		副目的										
	予算区分	款	8	項	3	目	2	大	3	中	2	
	根拠法令・個別計画											
	目的 (対象をどのような状態にするのか)	降雨時に適切な貯水量を確保するために、貯留施設を常に良好な状態に保つ。										
	内容 (手段)	<p>大規模調整池及び地下式貯留施設は、出水期間中に4回程度計装、ポンプ点検を行い不具合があれば直ちに修繕等を行う。また、降雨時の翌日には貯留槽の水抜きを実施している。</p> <p>さらに各貯留施設について、小牧市流域貯留浸透施設点検要領に基づく点検を年1回実施している。</p> <p>【委託業務内容】 施設点検業務の委託 雨水貯留施設点検業務委託(久保公園雨水貯留施設外) 調整池点検業務委託(応時三丁目調整池外) 雨水貯留施設水抜点検</p> <p>【修繕内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H21修繕実績 若宮公園逆止弁修繕、応時三丁目調整池ポンプ操作盤修繕</li> <li>・H22修繕実績 味噌小学校水位検知器修繕、応時三丁目調整池フロートスイッチ修繕</li> <li>・H23修繕実績 常普請一丁目逆止弁修繕、消耗電気部品修繕</li> <li>・H24修繕実績 応時三丁目調整池制御盤修繕、堀の内調整池ポンプ動力配線修繕</li> </ul> <p>◆24年度直接経費の内訳 雨水貯留施設保守管理委託料(3,164千円) その他、消耗品費・光熱水費・修繕料等(2,225千円)</p> <p>◆25年度直接経費の内訳 雨水貯留施設保守管理委託料(3,800千円) その他、消耗品費・光熱水費・修繕料等(2,743千円)</p>										
	受益者負担	無										

		単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	4,741	5,179	5,389	6,543	
		正職員	従事者数	人	0.10	0.10	0.10	0.10
			人件費	千円	533	533	533	533
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
	費用合計	千円	5,274	5,712	5,922	7,076		
	対前年比	%		108.3	103.6	119.4		
財源	一般財源	千円	5,274	5,712	5,922	7,076		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	績	施設点検回数	回	目標	54	59	59
実績				54	59	59	
業	水抜き点検回数	回	目標	156	169	169	169
			実績	156	169	169	
績	成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25
			計画雨水貯留量	m <sup>3</sup>	24,603	27,904	29,406
業	点検により発見した不具合を修繕した件数	件	目標	—	—	—	—
			実績	2	2	2	

事業の自己評価	平成24年度の実施結果	
	事業の達成状況	活動指標に基づく、定期的な点検を実施し、また必要に応じた水抜き点検を実施。さらに点検により確認された不具合については早期に修繕対応できるよう備え、貯留施設を常に良好な状態に保てており、降雨時に適切な貯水量を確保することができた。
	事業実施における課題	現在は施設の機能状態は良好であるが、いずれは劣化の進行具合で修繕等では対応できない状況が懸念される。
	事業を縮小・廃止したときの影響	降雨時に雨水を調整することで地域の浸水被害を防除、軽減している。事業を廃止・休止することは、貯留施設の機能を維持することができなくなり、不測の事態の際に甚大な被害が生じることとなる。
	平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等) 民間開発等により設置され移管を受けた貯留施設についても、機能維持を図るべく点検施設に追加し、さらなる貯留量の確保に努めることとした。
平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持 事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
	判定理由	点検回数について、コスト縮減を念頭に施設規模及び重要性を考慮し効率的に実施されており、また点検結果に基づいた早期の修繕工事を行うことにより、施設を良好な状態に保つことができていることから現状維持と判断した。
	26年度以降の改善案	劣化の進行により修繕等では対応できない時期が来ることを踏まえ、施設の長寿命化を考慮した対策を検討していく必要がある。

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。